Konica

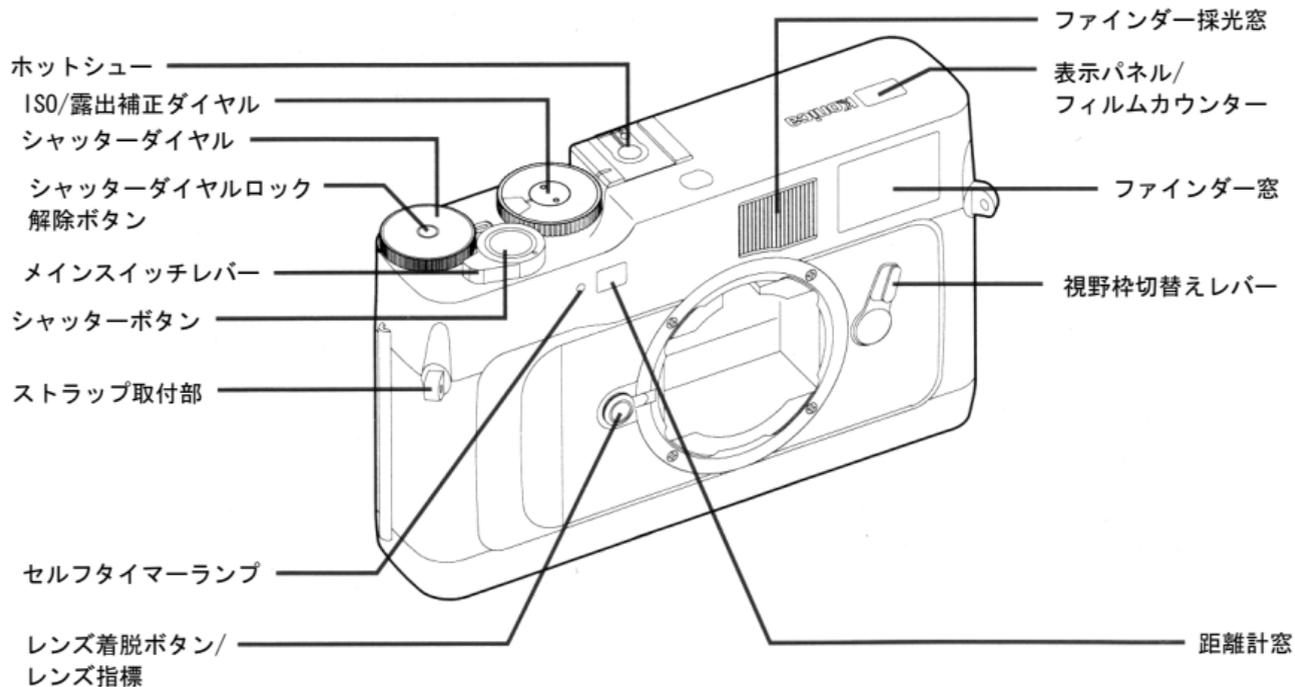
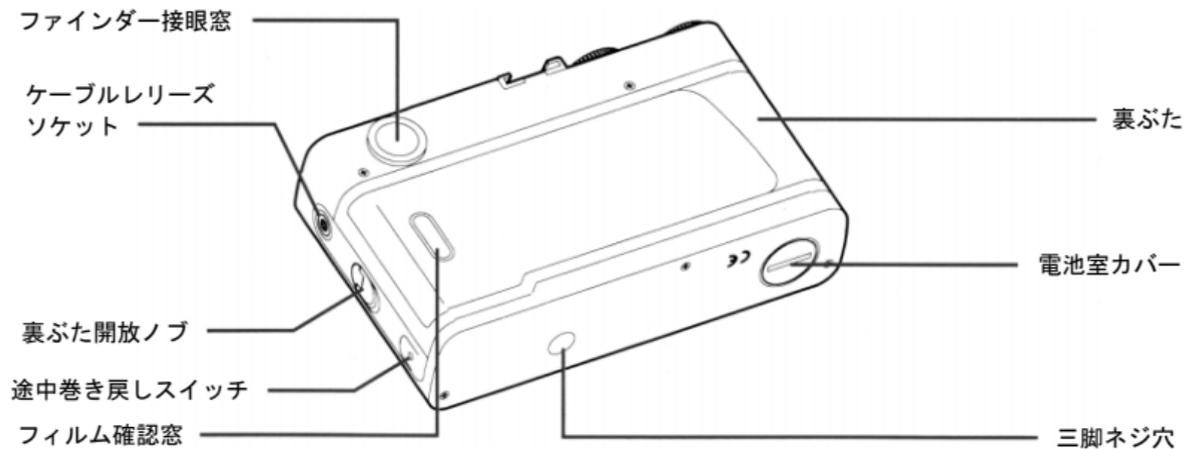
HEXAR RF

ご使用前に必ず
お読みください。

使用説明書

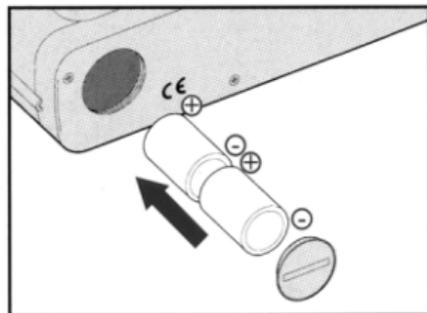
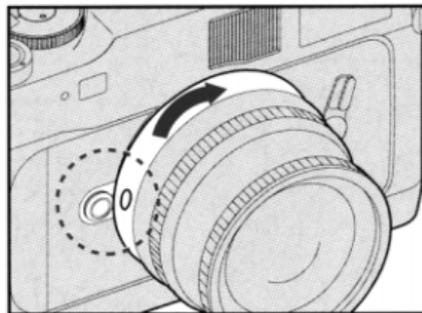
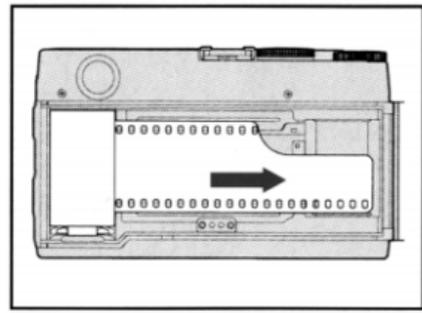
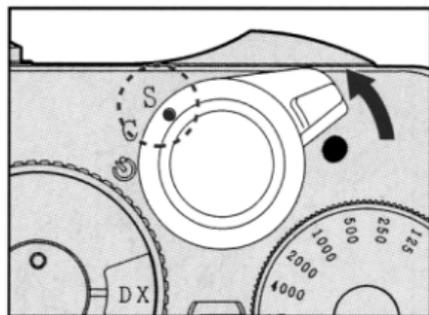
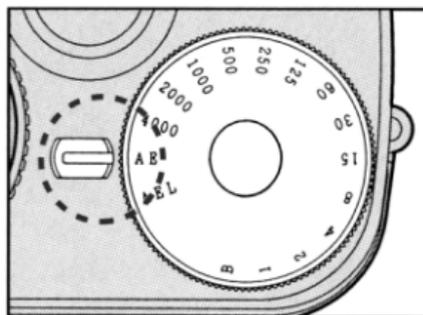
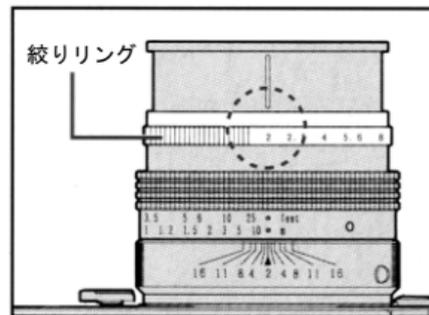
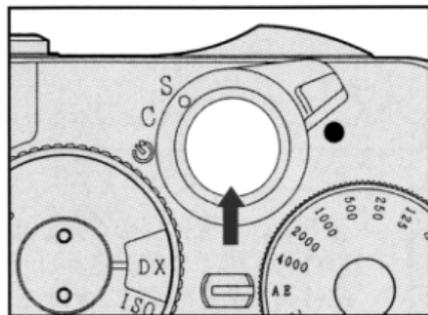
各部の名称

ホットシュー
ISO/露出補正ダイヤル
シャッターダイヤル
シャッターダイヤルロック
解除ボタン
メインスイッチレバー
シャッターボタン
ストラップ取付部
セルフタイマーランプ
レンズ着脱ボタン/
レンズ指標
ファインダー採光窓
表示パネル/
フィルムカウンター
ファインダー窓
視野枠切替えレバー
距離計窓

ファインダー接眼窓
ケーブルレリーズソケット
裏ぶた開放ノブ
途中巻き戻しスイッチ
フィルム確認窓
裏ぶた
電池室カバー
三脚ネジ穴

ストラップの取付け方

＊ ストラップ取付部にキズ防止カバーを当てます。金具は、取付具を金具の間に入れて広げてからストラップ取付部の穴に通します。キズ防止カバーの穴と金具の輪にストラップを通して取付けてください。

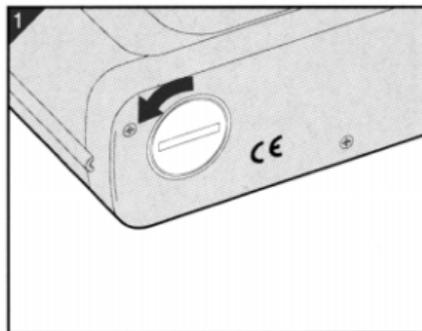
操作手順の早わかり

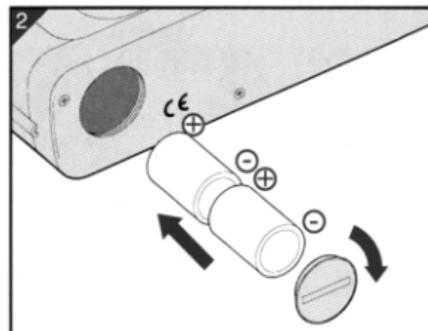
＊詳細は各ページをご覧ください。

1 電池を入れます。

2 レンズを取付けます。

3 裏ぶたを開けてフィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。

4 メインスイッチレバーを回して、指標を“S”にセットし電源を入れます。

5 シャッターダイヤルを回して、露出モードを“AE”にセットします。

6 フードを引き出して絞り値をセットし、構図を決めてピントを合せます。

7 シャッターボタンを半押しします。

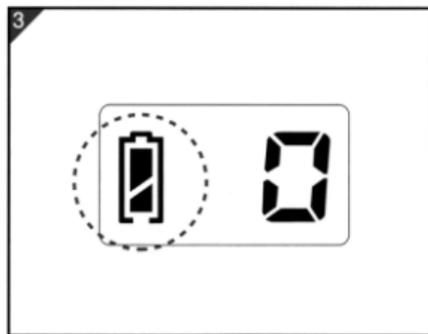
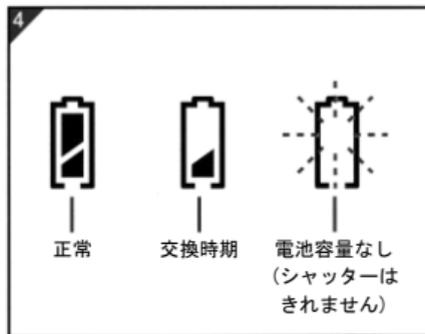
8 ファインダー内に適正シャッター速度が表示されます。更にシャッターボタンを深く静かに押し込み、シャッターをきって撮影してください。

撮影前の準備・基本操作

1．電池の入れ方

＊メインスイッチはOFFにしてください。

電池室カバーの溝にコインなどをあて、矢印の方向に回して電池室カバーを開けてください。

＊ 電池を入れるときや電池交換するときは、メインスイッチをOFFにしてから行なってください。

電池の＋、－を電池室内の表示に合せて正しい向きで入れて、電池室カバーを元の通り閉めてください。

＊ 電池の＋、－の向きを間違えるとカメラが作動しないばかりでなく故障の原因となることがありますのでご注意ください。

メインスイッチレバーを回して電源を入れてから、表示パネルを確認してください。電池マークが黒く点灯していれば、電池容量はOKです。

使用する電池は3Vリチウム電池(CR2)2本です。電池マークが2／3白くなったら、電池交換の時期です。

* 撮影途中で電池マークが2／3白くなったら、最後まで撮影してフィルムを巻き戻した後、電池交換してください。

* 長期間の旅行や、たくさんの写真を撮影するときには、予備の電池をご用意しておくことをお勧めします。
* 寒冷地では電池の性能が低下しますので、カメラを保温しながらご使用ください。まれに、電池の容量が十分でも、電池の容量が少ない表示になることがあります。

電池交換するときのご注意

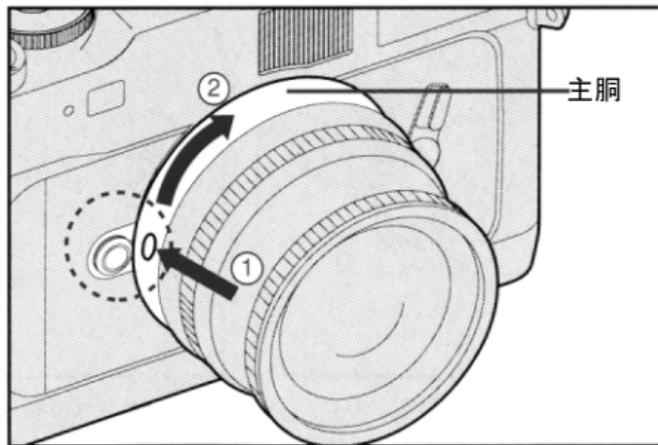
* 電池交換するときは、<u>必ず電源をOFFにしてから</u>行ってください。
* フィルムが入っているときは電池を手早く(30秒以内)入れ替えてください。

2．レンズの取付け／取外し方

＊ レンズの着脱はメインスイッチをOFFにしてから行なってください。

＊ レンズの着脱は、必ずレンズの主胴部分を持って行ってください。それ以外では正しく着脱できません。

＊ レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れたり、ボディ内部にゴミやホコリが入らないようにご注意ください。
また、レンズに触って指紋をつけたりしないようにご注意ください。レンズキャップをかぶせたまま行なえば安全です。

＊ フィルムが入っている状態でレンズを着脱する場合は、直射日光などの強い光を避けてください。また、レンズを取外した状態で、直射日光下に放置しないでください。

＜レンズの取付け方＞

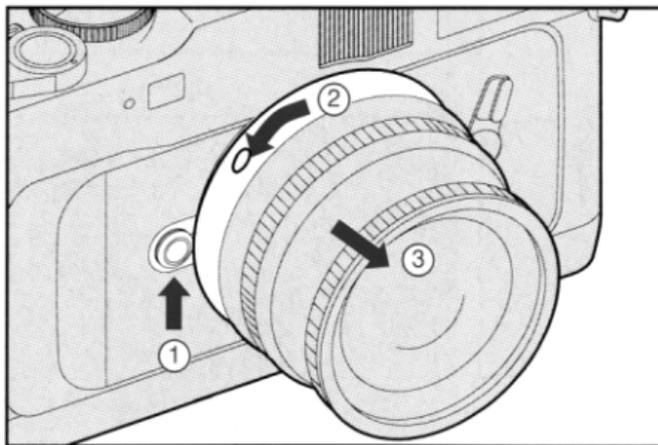
レンズの主胴部分を持ち、レンズ側の指標(赤点)をカメラ側のレンズ指標に合せて静かにはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取付けます。

＊ 取付ける前には、レンズの後キャップ、カメラのボディキャップを外してください。

＊ レンズが入らない場合、あるいは指標をずらしてレンズを入れた場合はロックができません。

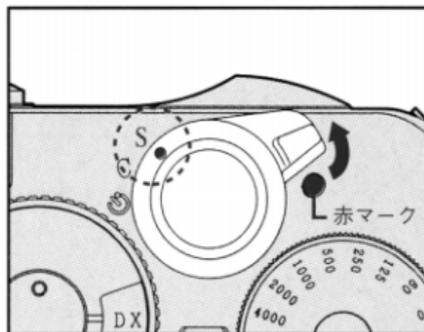
＜レンズの取外し方＞

レンズの主胴部分を持ち、カメラのレンズ着脱ボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出して外します。

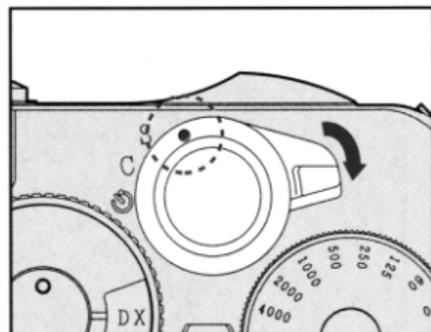
＊ レンズとカメラ本体の指標が合った位置でレンズが外れます。

＊ 取外したあとは、レンズにはレンズキャップと後キャップ、カメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

3．メインスイッチレバーの操作

● メインスイッチレバーの操作により、カメラの電源のON・OFFおよび連続撮影、セルフタイマー撮影の切替えを行ないます。

＊ レバーを回すときは、カチッと音がするクリックの位置に止めて使用してください。

メインスイッチレバーを回して、指標を“Ｓ”（１コマ撮影)の位置に合せると、カメラの電源が入ります。通常はこの位置でご使用ください。

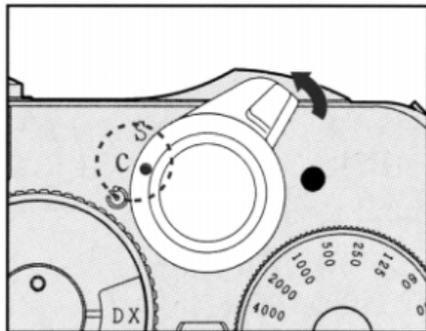
＊ 電源ONの状態のときは、赤マークが見えます。

＊ 電源ONのときは、表示パネルにフィルムカウンターと電池マークが点灯します。

指標を図の位置に戻すと電源が切れ、OFFの状態になります。レバーはクリックの位置で止めてください。

＊ 撮影後や長時間カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないように電源をOFFにしてください。

＊ 電源OFFのときは､赤マークが見えなくなり、表示パネルには電池マークのみが点灯します。

4. 表示パネル

連続撮影

メインスイッチレバーを回して、指標を“C”に合せます。シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影が行われます。

* 指を離すと撮影は終わります。
* 撮影コマ速度は、最高約2.5コマ／秒です。（コマ速度は、シャッター速度やフィルム感度、使用する電池状態により変化します。）

● 電源ONの状態で、表示パネルにはフィルムカウンターと電池マークが点灯します。電源OFFのときは電池マークのみが点灯します。

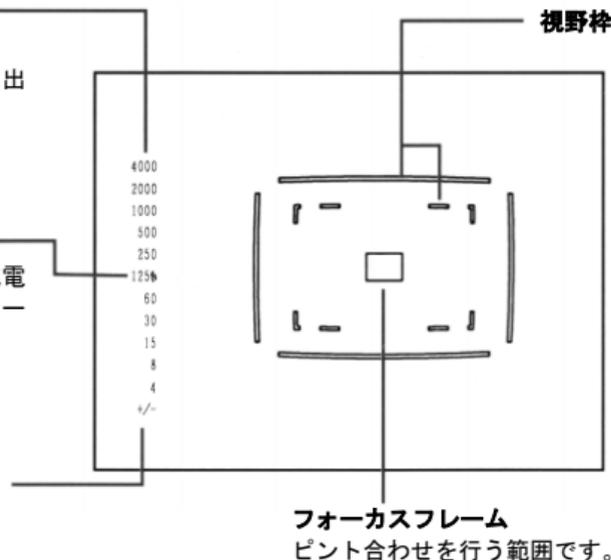
（＊図は全ての液晶を点灯状態で示してあります。）

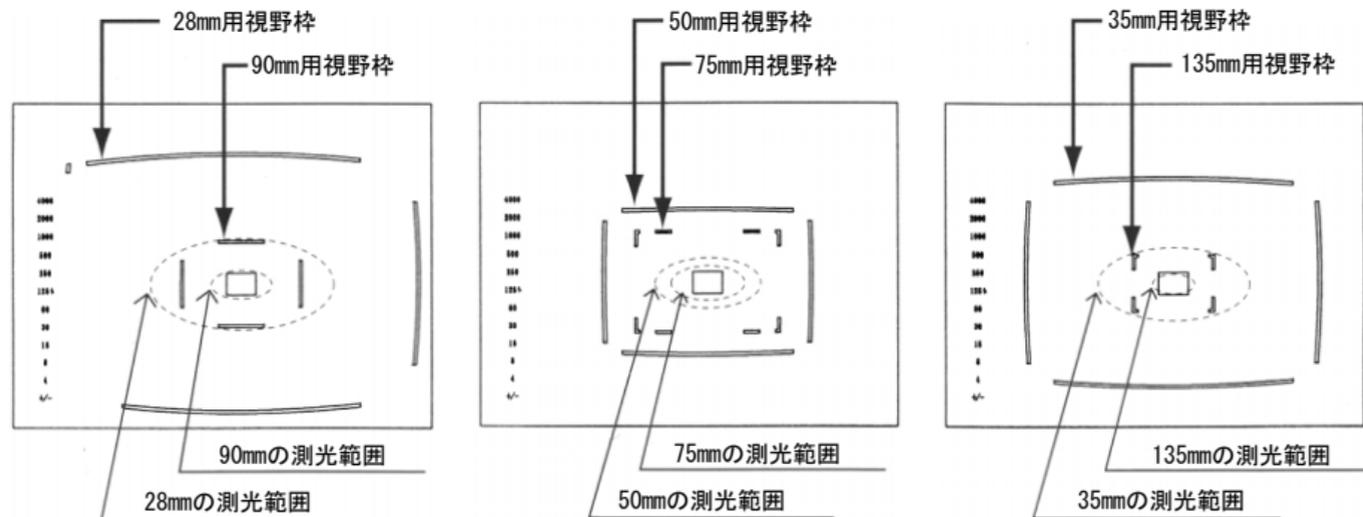
液晶について

このカメラでは、表示パネルに液晶を使用しています。
液晶は、高温のところでは表示が黒くなり、低温のところでは応答速度が遅くなることがありますが、いずれも常温になれば正常に戻ります。また、静電気を帯びているものを近づけた場合も表示が黒くなりますが、しばらく放置しておくと正常に戻ります。

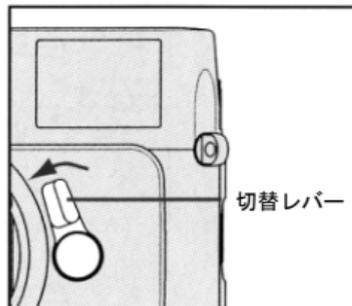
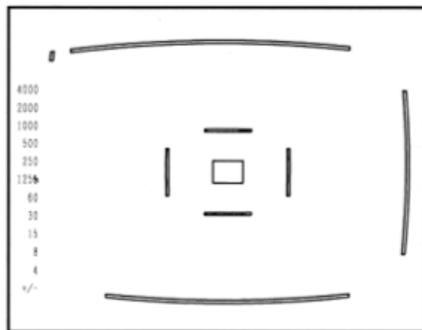
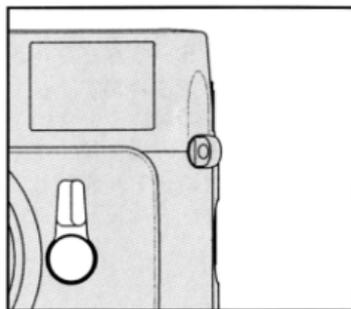
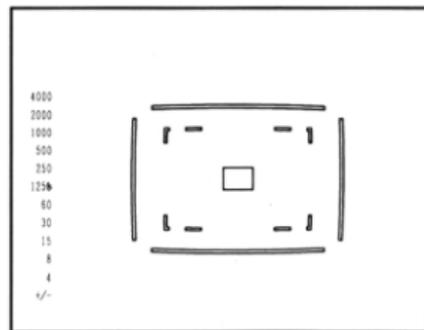
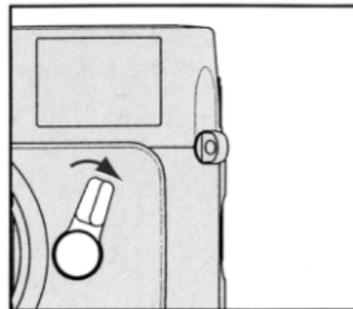
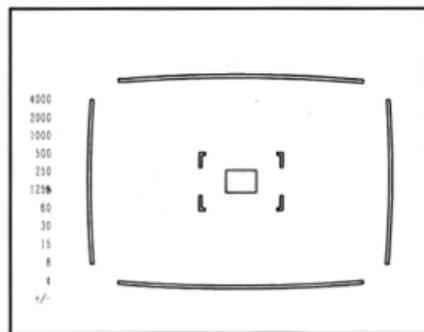
5．ファインダー内表示及び測光範囲

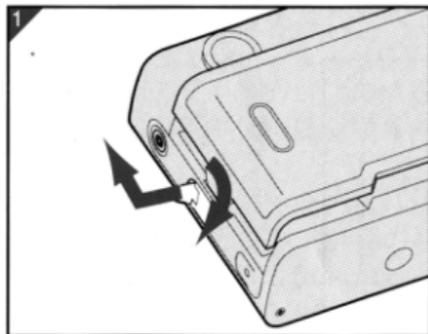
＊図はすべての表示を点灯状態で示してあります。

● ファインダー内表示は電源をONにしたとき、または電源ONの状態のときシャッターボタンを半押しすると点灯します。約15秒間は測光状態が続きますが、その後自動的にパワーOFFとなりファインダー内表示は消灯します。シャッターボタン半押しで再点灯します。また、シャッターボタンを半押し状態にしている間は点灯状態が続きます。

● 視野枠及び測光範囲について

* 28、35、50、75、90、135㎜レンズ対応の視野枠を装備しています。
* 視野枠は使用レンズによって自動的に変化します。使用レンズの視野枠内に被写体を入れて撮影してください。
* 各レンズの視野枠は、撮影時ピントを合せた距離に応じてパララックス(視差)が自動的に補正されます。
* 各レンズの測光範囲はおおよそ下図の通りです。

● 視野枠手動切替えについて

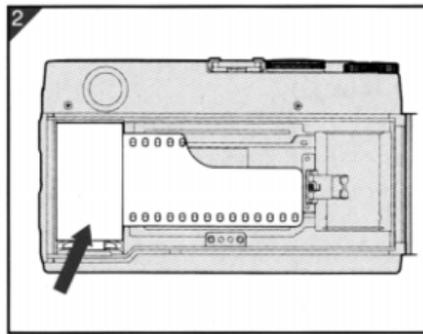
* 視野枠切替えレバーによって、レンズを取付けなくても各レンズの焦点距離ごとに異なる撮影範囲を確認することができます。
* 視野枠切替えレバーを内側に押すと焦点距離28mmと90mm用の視野枠が現れ、真ん中にすると50mmと75mm用の視野枠が現れます。外側の位置では、35mmと135mm用の視野枠となります。

28mm、90mm

50mm、75mm

35mm、135mm

6．フィルムの入れ方

＊35mmフィルムをご使用ください。

裏ぶた開放ノブを起こし、矢印方向に回すと裏ぶたが開きます。

＊ 開けた後、裏ぶた開放ノブは元の位置に収納しておいてください。

＊ カメラ内部には触れないようご注意ください。

＊ 初めてフィルムを入れる時は、カメラの内側に入っている"保護シート"を取り外してください。

パトローネ(フィルム容器)をカチッと音がするまで押し入れ、フィルムが平らに出るようにします。

シャッター幕について

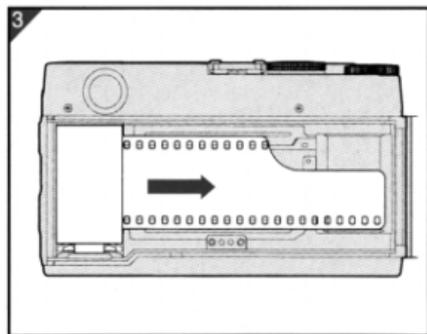
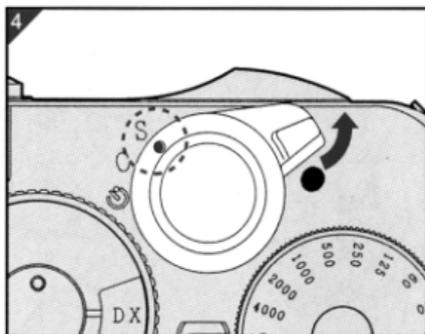
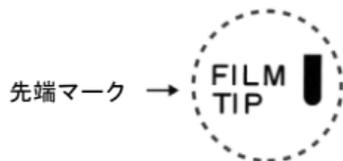
シャッター幕は精密部品です。絶対に指やフィルムの先端で触れたり突いたりしないでください。

特にフィルム先端がシャッター幕の上にある状態では絶対にシャッターを切らないでください。

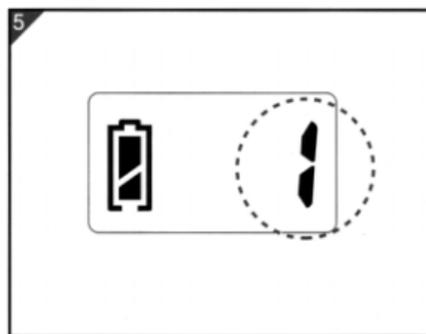
また、ブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。

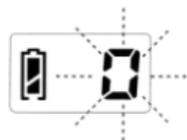
ボンベタイプのブロワーは使わないでください。

＊ DXコードの付いたフィルムを入れると、使用フィルムの感度(ISO25～5000)が自動的にセットされます。

＊ DXコードの付いていないフィルムをご使用の場合は、フィルム感度をマニュアル設定してください。

フィルムを少し引き出し、先端をカメラ内部の先端マーク(下図参照)に合わせて入れ裏ぶたを閉じてください。

メインスイッチを入れるとモーター音と共にフィルムが自動給送されます。

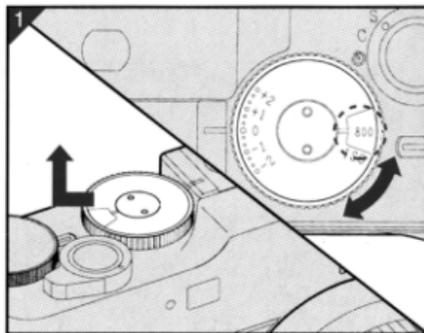
＊ メインスイッチがすでに入っている場合は、シャッターボタンを押してください。

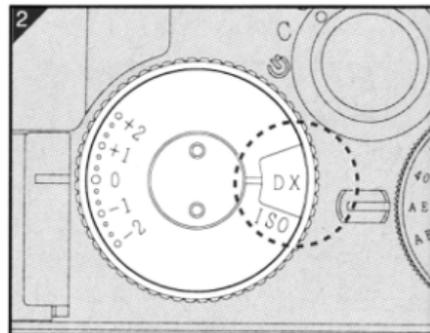
＊ DXコードの付いていないフィルムをご使用の場合は、メインスイッチを入れた後、更にシャッターボタンを1回押してください。

フィルムが正しく給送されると、表示パネルには“１”が表示されます。

＊ もし、フィルムが正しく給送されていないときは、“０”表示が点滅します。裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

7．フィルム感度のセットの仕方

● DXコードのないフィルムの感度をセットする場合や、DX表示と異なる感度に変えたい場合に使います。

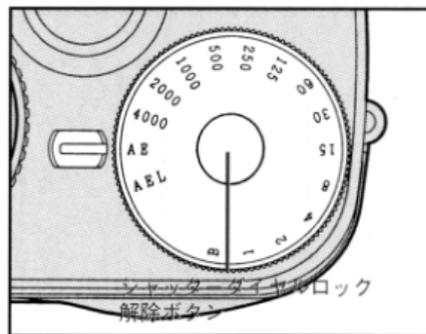
● フィルム感度は、ISO6～6400の範囲で1／3段ごとに設定できます。

● 任意の感度にセットすると、DXコード付きフィルム使用時でもマニュアル設定した値になります。

ISO／露出補正ダイヤルを引き上げながら回し、使用フィルムの感度に合せてフィルム感度目盛を指標に合せてください。

＊ セットされたフィルム感度は次に設定し直すまで保持されています。

DX導入を自動設定に戻したいときは、“DX”の文字を指標に合わせてください。

＊ DXコードのないフィルムを入れてISOダイヤルをDXに合せた場合、導入感度は全てISO100にセットされます。

8．シャッターダイヤルの切替え

＊撮影の目的や用途に応じて露出モードが選択できます。

シャッターダイヤルを回して露出モードの切替えやマニュアルシャッター速度の選択などを行います。

＊ シャッターダイヤルを回すときはカチッと音がするクリックの位置に止めて使用してください。

＊ AEまたはAELにセットした場合は、シャッターダイヤルロックが掛かり、AE/AEL以外の位置にはダイヤルが回りません。ロックの解除は“シャッターダイヤルロック解除ボタン”を押しながらシャッターダイヤルを回します。

絞り優先AE撮影

“AE”にセットします。あらかじめ絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じてシャッター速度を自動的にコントロールし、適正露出を得ます。絞り値を一定に保てますので、被写界深度を利用した撮影などにも便利です。

マニュアル露出撮影

絞りとシャッター速度を撮影意図や目的に合わせて任意にセットし撮影する方法です。また、意図的に露出をオーバーやアンダーにすることもできます。

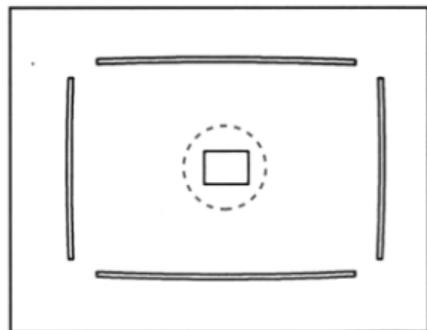
AEロック撮影

“AEL”にセットします。絞り優先AE撮影の際に用いる露出の補正方法です。逆光時での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど露出を固定したいときに使います。

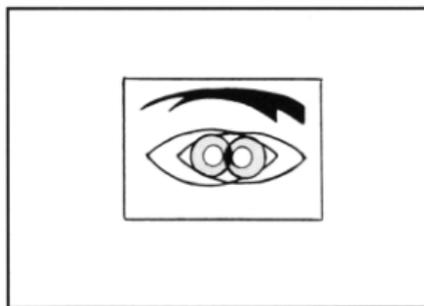
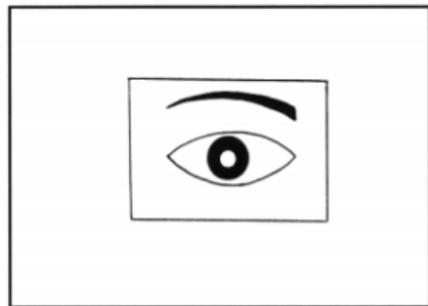
バルブ撮影

“B”にセットします。長時間露光を必要とする夜間撮影や、天体撮影を行うときなどに使用します。シャッターボタンを押している間シャッター幕が開いて露光されます。

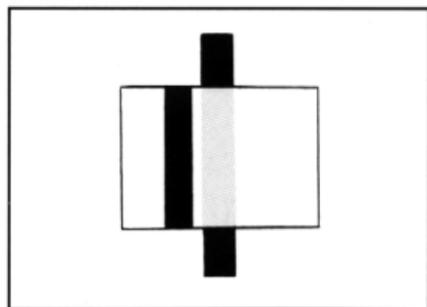
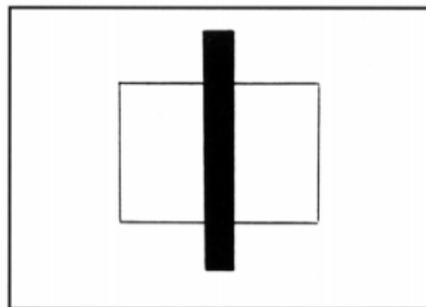
9．ピントの合わせ方

ピントが合っていないとき

ピントが合ったとき

ピント合わせは、ファインダー内中央の□の部分で行ないます。ピント合わせには2通りあります。被写体に応じて合せやすい方法で行ってください。

＊ ピント合わせは、ファインダー接眼窓の中心に眼を置きファインダーを覗いてください。

① 二重像合致式ピント合わせ

一般的な方法です。

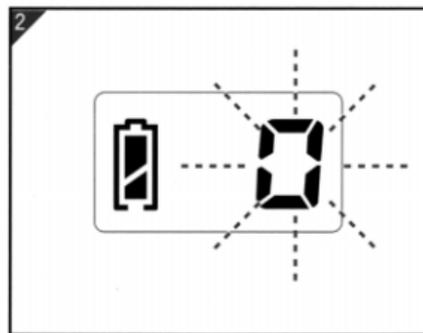
例えば人物撮影などで、被写体の目の部分でピントを合せる場合、ファィンダーを覗き、□部分の二重像がひとつに重なるまでレンズのフォーカスリングを回します。

ピントが合っていないとき

ピントが合ったとき

② 上下像合致式ピント合わせ

被写体の端や、建物や塔など直線的なものの撮影で、□の上下からはみ出している場合､図のように□の境界線で被写体のズレがなくなるまでレンズのフォーカスリングを回します。

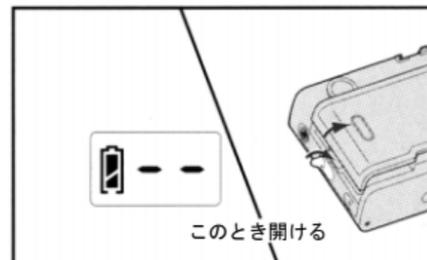
10. フィルムの取り出し方

フィルムを最後まで撮り終わると、フィルムが自動的に巻き戻しされます。

＊ フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して減算表示していきます。

巻き戻しが完了すると自動的に停止し、フィルムカウンターに“0”が点滅します。裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

＊ フィルムの取り出しは直射日光を避けて行ってください。

＊ 撮り終わったフィルムは、できるだけ早く現像に出すことをお勧めします。

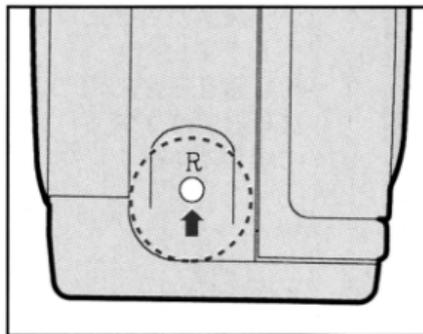
“フィルムの先端を残して巻き戻しができます”

巻き戻し完了直前のフィルムカウンターに“1”が点灯した後“ーー”表示の状態で約1秒間停止します。このときに裏ぶたを開けると、フィルムの先端が残ります。

＊ 先端を残して巻き戻しした場合、そのフィルムを誤って再使用しないようご注意ください。

巻き戻し一時停止機能について

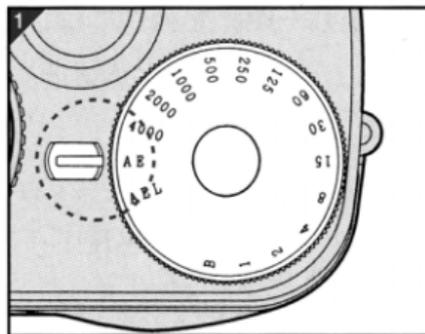
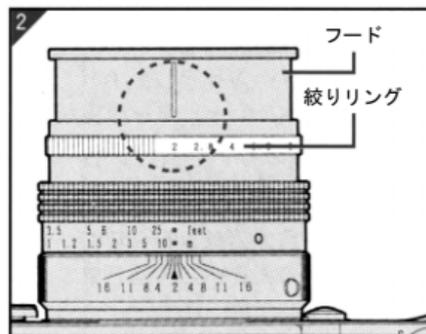
フィルムの巻き戻しを一時停止させることができます。
巻き戻し作動中にメインスイッチレバーを回し電源をOFFにすると巻き戻しが停止します。電源をONにすると巻き戻しが再開します。

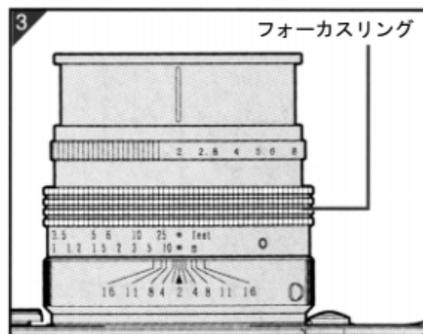
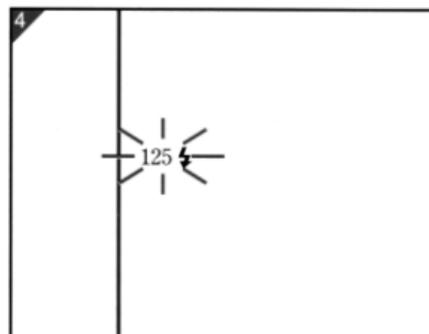
* 結婚式など、巻き戻しの音を立てたくない(一時停止させたい)ときに便利な機能です。

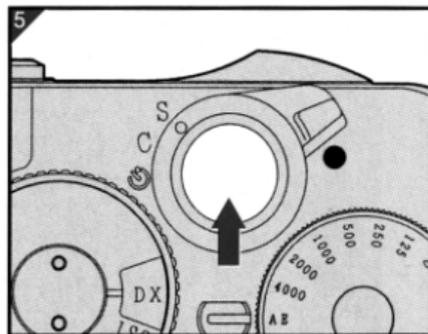
途中巻き戻しの方法

途中巻き戻し(R)スイッチをストラップ調節具の突起部で押すと、撮影途中のフィルムの巻き戻しができます。

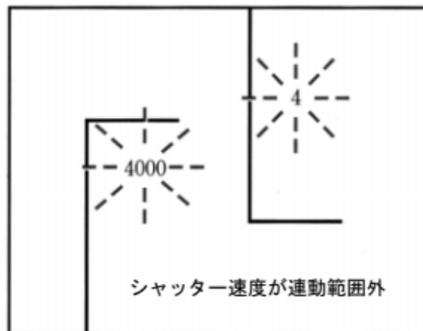
* 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

11. 絞り優先AE撮影

● 指定した絞り値に合せてシャッター速度が自動的に変化するモードです。
絞り値を一定に保てますので、被写界深度を考慮した撮影などに便利です。

電源をONにし、シャッターダイヤルを回して露出モードを“AE”にセットします。

レンズのフードを引き出し、絞りリングを回して絞り値をセットします。

* セットした絞りに応じた適正なシャッター速度が自動的に設定されます。

ファインダーをのぞいたままフォーカスリングを回してピントを合せます。

シャッターボタンを半押しして、ファインダー内表示を点灯させます。絞り値に対応したシャッター速度(適正値)が点灯表示されます。

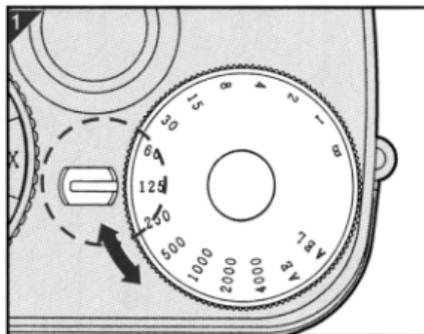
* 約15秒間は測光状態が続きますが、その後自動的にパワーOFFとなり表示は消灯します。シャッターボタンを半押しすると再点灯します。
* AEロックも可能です。

シャッターボタンを更に深く静かに押し込み、シャッターをきって撮影してください。

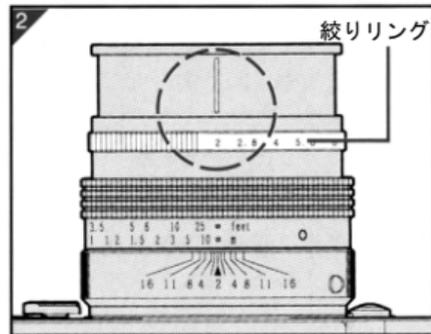
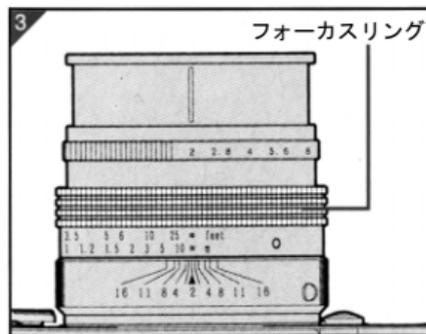
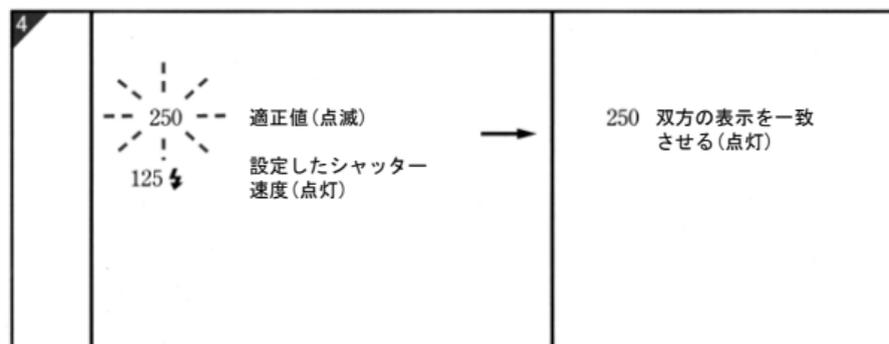
* 撮影が終わるとフィルムが１コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が1つ進みます。

もし、シャッター速度が連動範囲(適正値)を超える状態のときは、“４”或いは“4000”の表示が早く点滅します。このときは、絞り値を変えてください。

* “４”が早く点滅をしたときは、低輝度連動範囲外警告です。絞りを数の小さい方へ回します。連動範囲内でシャッター速度が1／2秒より遅い場合は、“４”がゆっくり点滅します。
* “4000”が早く点滅をしたときは、高輝度連動範囲外警告です。絞りを数の大きい方へ回します。

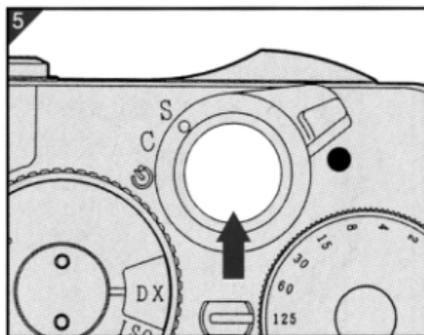
連続した２つのシャッター速度が点灯したときは、シャッター速度が２つの表示の間であることを示しています。

12. マニュアル露出撮影

● シャッター速度と絞りの組み合わせを任意に設定できるモードです。また、意図的に露出をオーバーやアンダーにすることも簡単です。

電源をONにし、シャッターダイヤルを回して撮影するときのシャッター速度を指標に合せてセットします。シャッター速度は1秒～1/4000秒の範囲で1段ごとに設定することができます。

＊ シャッターダイヤルロックが掛かっている場合は、シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながらシャッターダイヤルを回してください。

レンズのフードを引き出し、絞りリングを回して絞り値をセットします。

ファインダーをのぞいたままフォーカスリングを回してピントを合せます。

シャッターボタンを半押しして、ファインダー内表示を点灯させます。シャッターダイヤルで設定したシャッター速度が点灯します。また、それとは別に点滅している表示は、被写体の明るさと、設定された絞り値およびフィルム感度に対して適正値となるシャッター速度を示しています。

適正値に合わせるには、レンズの絞りリングあるいはシャッターダイヤルを回して双方の表示を一致させて点灯状態にすると適正露出が得られます。

* 設定したシャッター速度および適正値が1／2秒より遅い場合は、ファインダー内表示は“４”がゆっくりと点滅します。
* “４”或いは“4000”の表示が早い点滅をしたときは、シャッター速度の連動範囲外警告です。もし、適正値に合せたい場合は絞り値を変えてください。
* マニュアル露出では、点滅または点灯している表示を意識的にずらすことによって、露出をアンダー気味に、あるいはオーバー気味にするといった操作が自由に行え、撮影意図に応じた写真を撮ることができます。

シャッターボタンを更に深く静かに押し込み、シャッターをきって撮影してください。

13. 被写界深度について

● 被写界深度の性質

ある被写体にピントを合せたとき、その被写体の前後にも鮮明に写る(ピントの合う)範囲があります。この範囲を「被写界深度」といいます。鮮明に写る範囲が広いことを「深度が深い」といい、その範囲が狭いことを「深度が浅い」といいます。
被写界深度には次のような性質があります。

① 紋りの数値が大きい(絞り込む)ほど深くなり、数値が小さい(絞りを開く)ほど浅くなります。

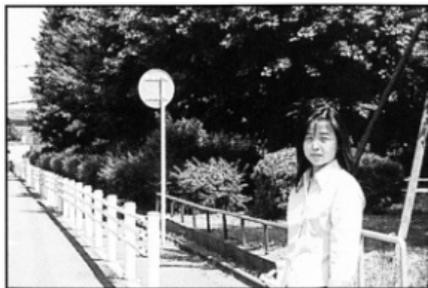
② 同じ絞り値でも、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

③ 被写体との距離が遠いほど深く、近いほど浅くなります。

④ ピントを合わせた位置より後方に深く、前方に浅くなります。

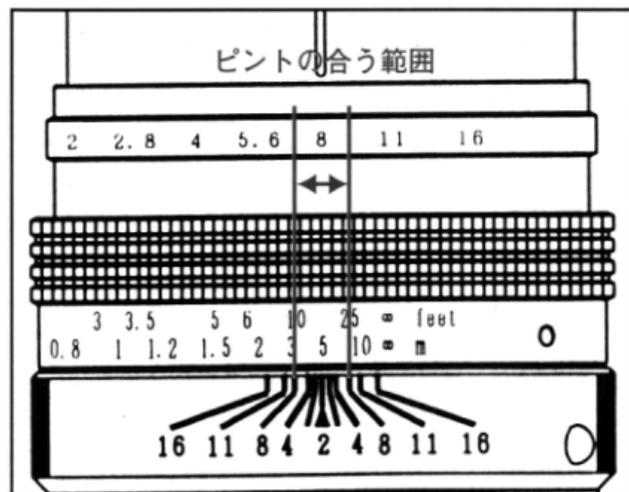
＊ 絞りを開放付近にして被写体のみを鮮明に写し背景をボカしたり、或いは最小絞り付近にして被写体も背景も鮮明に写すなど、この被写体深度を利用すれば、写真表現が豊富になります。

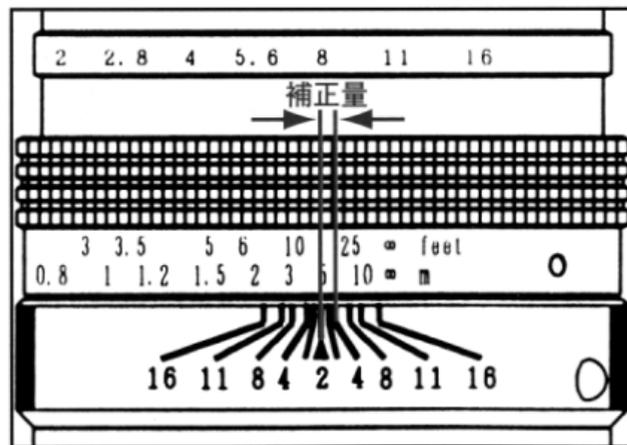
被写界深度を利用した作例

深度が浅い　F4

深度が深い　F16

● 被写界深度の確認方法

被写界深度の範囲は、各レンズの被写界深度目盛で読み取ることができます。
レンズの距離／絞り指標両側に並んでいる一対の数字が被写界深度の目盛です。被写界深度目盛は距離目盛に関連づけて目盛ってありますので、深度範囲を距離目盛から読み取ることができます。

被写界深度目盛の見方

例えば、50mm F2レンズで、撮影距離が５mのとき、絞り値をF8にして撮影するとします。そのとき、F8に対応する距離目盛(指標の両側にある８の範囲内)を読み取ると約3.4m～約9.7mとなり、この範囲のものが大体鮮明に写ることが分かります。

14. 赤外撮影

赤外撮影では可視光と赤外光でピント位置が異なるので、ピントのズレを補正する必要があります。ピントの合った距離を指標のとなりにある赤線(赤外線指標)までずらしてください。

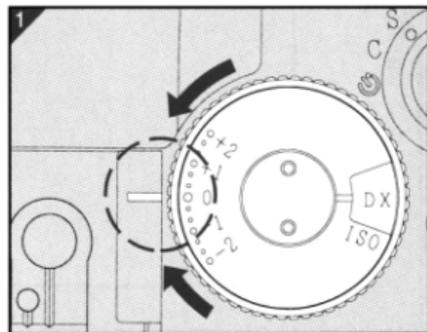
* 赤外撮影は、赤外線フィルムとフィルターを使用します。
* 詳しくは、赤外線フィルムの使用説明書に従ってください。

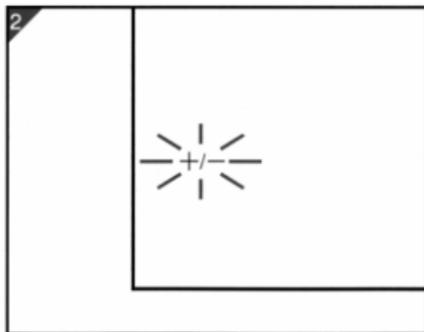
* M-HEXANONレンズの90mm F2.8KMマウントタイプには、被写界深度目盛の都合により赤外線指標がありません。詳しくは90mm F2.8レンズの使用説明書をご覧ください。

15. 露出補正撮影

● 逆光での撮影や主要被写体とその背景に極端な明暗があるときなどは、そのままシャッターをきると適正露出が得られないことがあります。
このようなときには露出の補正を行います。また、意図的に露出オーバーやアンダーの写真を撮りたいときにも利用します。
露出の補正には「露出補正ダイヤルの利用」と「AEロックの利用」の２通りの方法があります。

(1) 露出補正ダイヤルの利用

● 絞り優先AE撮影、マニュアル露出撮影のどちらの場合でも、露出補正の設定した値を基準にファインダー内に露出表示します。

露出補正ダイヤルを回して、希望する補正値を指標に合せてセットします。
補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲で1/3EVごとに設定することができます。

＊ 但しフィルム感度がISO6の場合は０～＋2EV、ISO12の場合は－1～＋2EVの範囲でのみ設定可能となります。

露出補正ダイヤルを“0”以外に合せると、ファインダー内表示には、+/−マークが点灯し露出補正中であることを表示します。

* 通常は露出補正ダイヤルを“0”に合わせておきます。
  撮影終了後は忘れずに露出補正ダイヤルを“0”に戻しておいてください。
* 絞り優先AE撮影での補正はシャッター速度を制御して行ないます。

（+補正）

（補正なし）

通常、逆光撮影などのときは“+1/3EV〜+2EV”の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように、明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなることがあります。このようなときは、露出を+1/3〜+2EVの範囲で補正して、露出を多く与えて撮影します。
また、画面全体を明るく仕上げたいときや明暗コントラストの強い建物の暗部を明るく写したいときなど意図的に露出を多く与えたいときの撮影にも利用してください。

* 補正量が決めにくいときは、前後に1/3段階くらいずつ補正値を変えて数枚撮影しておくことをおすすめします。

（－補正）

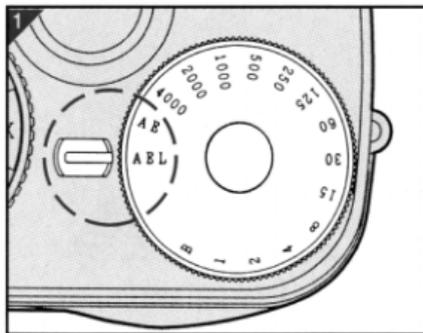
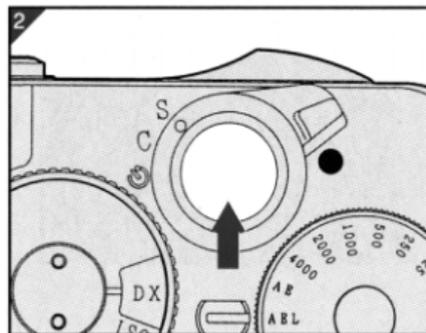
（補正なし）

また、暗い背景などのときは“－1/3EV～－2EV”の範囲で補正します。

黒バックの人物、スポットライトに照らしだされた人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなることがあります。
このようなときは、露出を－1/3～－2EVの範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。
また、画面全体を暗く仕上げたいときや空の色を強調したい風景を写したいなど意図的に露出を少なくしたいときの撮影にも利用してください。

＊ 補正量が決めにくいときは、前後に1/3段階くらいずつ補正値を変えて数枚撮影しておくことをおすすめします。

(2) AEロックの利用

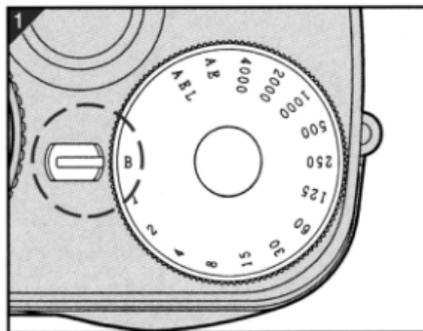
● 紋り優先AE撮影の際に利用する露出の補正方法です。
逆光時での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど露出を固定したいときに利用してください。シャッターダイヤルを“AEL”にセットします。シャッター・ボタン半押し状態で露出がカメラに記憶され、そのままシャッターボタンを押すと、背景の変化に関係なく記憶された露出でシャッターがきれます。

最初に、シャッターダイヤルを回して露出モードを“AEL”にセットします。
次に、主要被写体にファインダー内のフォーカスフレームを向け、ピントを合せます。

シャッターボタンを半押し状態にしてください。これで露出が固定(AEロック)されます。シャッターボタンを半押しにしたまま希望の構図を決め、シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み撮影します。

＊ 半押しした指を離すとAEロックは解除されます。

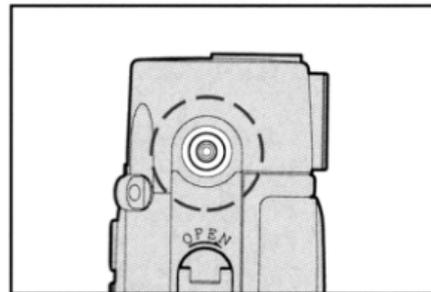
* 連続撮影するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
* AEロック時点で露出連動範囲外の警告が出ている場合、AEロックはできません。
* このカメラは、AEロックの方式としてシャッター速度を記憶しています。AEロック後に絞りを変えると露出量が変わります。

16. バルブ撮影

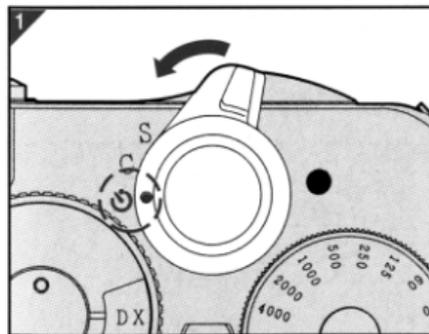
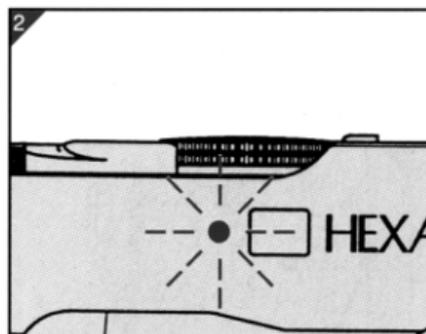
● 夜景や天体写真など、1秒以上の長いシャッター速度で撮影する場合は、バルブ撮影モードをご使用ください。

＊ カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか安定した台などに置き、市販のケーブルレリーズを使用して撮影してください。

シャッターダイヤルを回して露出モードを“B”にセットします。絞り値をセットし、ピントを合せて撮影してください。シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

＊ シャッターダイヤルロックが掛かっている場合は、シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながらシャッターダイヤルを回してください。

ケーブルレリーズ

市販のケーブルレリーズは、ケーブルレリーズソケットにねじ込みご使用ください。

＊ ケーブルレリーズを使用する場合は、シャッター半押しの状態のAE測光ができません。あらかじめシャッターボタンを半押しし、露出の確認をしてからケーブルレリーズを作動させてください。

17. セルフタイマー撮影

メインスイッチレバーを回して、指標を ⏲ マークに合せます。

ピントを合せ、シャッターボタンを押してください。セルフタイマーがスタートし、約10秒後にシャッターがきれます。

＊ セルフタイマーのスタートと同時に、セルフタイマーランプが約7秒点灯し、撮影の約3秒前から点滅に切替ります。

＊ 三脚をご使用ください。

＊ 測光はシャッターボタンを押したときに行われますので、カメラの後側に立ってシャッターボタンを押してください。

＊ 露出モードを“Ｂ”にセットしたときは、セルフタイマーは使用できません。

＊ セルフタイマーの作動をキャンセルしたいときは、メインスイッチレバーを他のポジションに切替えてください。

＊ フラッシュ撮影でセルフタイマー撮影するときは、フラッシュの充電完了を確認してからシャッターボタンを押してください。

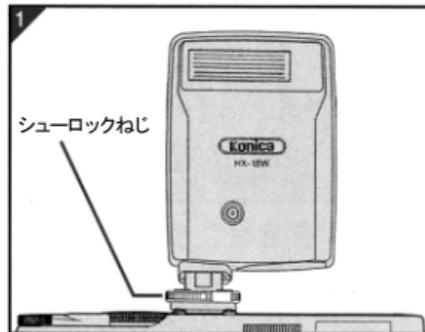
＊ セルフタイマー撮影が終わったら、メインスイッチレバーを“OFF” “Ｓ” “Ｃ”のいずれかの位置に戻してください。そのままにしておくと次の撮影もセルフタイマーが作動してしまいます。

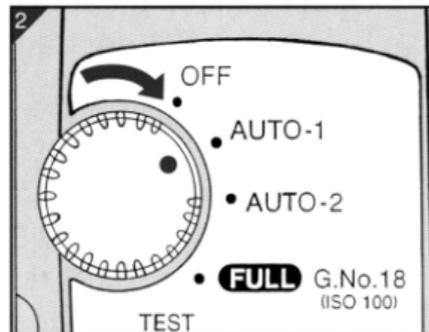
18. フラッシュ撮影

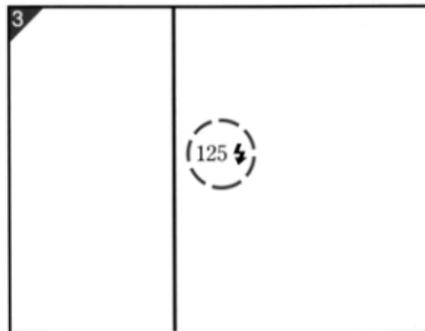
● 室内や夜間の撮影では、フラッシュのご使用をおすすめします。フラッシュ撮影は、日陰の人物や逆光の人物などを撮影するときにも効果的です。

(1) 専用フラッシュHX-18W(別売)による撮影

HX-18Wは自動調光撮影とフル発光撮影が選択できます。

●自動調光撮影／絞り優先AE撮影の場合

シューロックねじをゆるめ、カメラのホットシューに専用フラッシュを差し込みます。シューロックねじを時計方向に止まるまで回して固定させます。

＊ 必ずシューロックねじで固定させてからご使用ください。

カメラの電源をONにしてから、フラッシュのロータリースイッチを回し、指標をAUTO-1またはAUTO-2に合わせ、レンズの絞りを合わせます。シャッターダイヤルをAEまたはAELに合せます。

* AUTO-1とAUTO-2の選択は、使用フィルムの感度と撮影距離に応じて決めてください。詳しくは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。
* 絞り優先AE撮影のときは、シャッター速度は自動的に1/125秒に設定されます。
* 撮影モードが連続撮影の場合は、発光間隔などフラッシュの性能をご確認の上ご使用ください。

充電が完了すると、ファインダー内に“125⚡”マークが点灯します。ピントを合せ撮影してください。

●自動調光撮影／マニュアル露出撮影の場合

1) 絞り優先AE撮影時と同様に、AUTO-1またはAUTO-2を選択します。

2) ファインダー内の表示を見て適正シャッター速度を選択します。

   ＊ 1/125秒より速いシャッター速度は同調しません。

3) フラッシュの充電完了表示(125 ⚡)を確認し、ピントを合せ撮影してください。

   ＊ AUTO-1、2以外の絞りを選択したい場合は、フラッシュのロータリースイッチをFULLに合せてください。絞り適正値は下表の公式に従い求めてください。

適正値を求める公式

$$適正絞り値(F)=\frac{ガイドナンバー(G.\ No.)}{撮影距離(m)}$$

＊ フィルム感度別ガイドナンバーはフラッシュの使用説明書をご覧ください。

(2) HX-14(別売)使用による撮影

基本操作はHX-18Wと同様です。

＊ フラッシュのAポジションでは自動調光、P.FULLポジションではフル発光フラッシュとして使用できます。

＊ 但し、自動調光撮影(フラッシュのAポジション)時の絞りは、ISO100でF4になります。

＊ フラッシュのAポジションでは、ファインダー内に充電完了表示は点灯しません。

(3) 市販のフラッシュを使用の場合

1) シャッター速度を1/125秒以下に設定します。

2) 絞りをセットし撮影します。

＊ 絞りは、使用するフラッシュの使用説明書に従い決定してください。

別売品について

● **専用アクセサリー(別売)**

視度調整レンズ(+2、+1、0、−2、−3ディオプター)、交換レンズ、フラッシュ、カメラケースなどの専用アクセサリーをご用意しました。詳しくは、カメラのお買い上げ店にお問い合わせください。

おもな仕様

＊下記性能については当社試験条件によります。
＊製品の仕様、外観については予告なく変更することがあります。

形式	：35mmレンズ交換式距離計連動フォーカルプレンシャッターカメラ
画面サイズ	：24×36mm（J135フィルム使用）
レンズマウント	：バヨネット式コニカKMマウント
シャッター型式	：電子制御縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッター速度	：オート　；16秒～1／4000秒（無段階）、 マニュアル；B（バルブ）、1秒～1／4000秒（1TVステップ）
シンクロ接点	：ダイレクトX接点,1/125秒以下で同調
露出制御	：絞り優先AE、マニュアル露出、AEロック
測光方式	：SPD受光素子使用のTTL実絞り測光（中央重点方式）
測光連動範囲	：（ISO100、F2）EV1～EV18
フィルム感度連動範囲	：DXコードによる自動設定時；ISO25～5000、マニュアル設定時；ISO6～6400（1/3EVステップ）
露出補正	：－2EV～＋2EV（1/3EVステップ）
ファインダー	：実像距離計式逆ガリレオ透視ファインダー、倍率；0．6倍、視野率；85％（3m時） 連動距離；0.7m～∞
ファインダー内表示	：視野枠、シャッター速度目盛（定点合わせ可能）、露出補正マーク、フラッシュ充電完了表示（専用フラッシュ使用時）、露出連動範囲外警告表示
視　野　枠	：撮影レンズ対応視野枠自動切替え式（対応レンズ：28mm、35mm、50mm、 75mm、90mm、135mm）、手動切替え確認可能、パララックス自動補正

連動距離計	：スプリットイメージ・二重像合致式
フィルム給送	：電動式、裏ぶたを閉じてメインスイッチを入れるとスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し終了後自動停止、途中巻き戻し可能、巻き戻し一時停止可能
セルフタイマー	：電子式、作動時間・約１０秒、セルフタイマーランプが約７秒間点灯後に約３秒間点滅、途中解除可能
フィルムカウンター	：自動復元順算式、表示パネルに表示
アクセサリーシュー	：ダイレクトX接点
使用温度範囲	：－１０℃～＋５０℃
電池寿命	：約１００本（３６枚撮りフィルム）
電　　源	：リチウム電池（ＣＲ２・３Ｖ）２本
大きさ・質量	：１３９．５×８０×３５ｍｍ　５６０ｇ（本体のみ、電池別）